

建友会誌

Annual alumni bulletin KENYU-KAISHI

2023

令和5. 1. 1発行 Vol.65

広大建友会事務局／
電話（082-424-7838）事務局長 西名大作
電話（082-424-7834）事務局理事 中園哲也
739-8527東広島市鏡山1-4-1／広島大学建築学教室内
郵便振替口座番号／広島01390-2-6208
広島銀行西条支店／普通442989

会 告

令和5年度建友会総会（東京）並びに講演会のお知らせ

寄 稿

原爆ドームと相生通り…………… 会長 河原直己
広島大学建築グループの近況報告…………… 大久保孝昭
築後41年、名護市庁舎の現状と、
生き続けるための仕組み…………… 内田文雄
日本建築学会主催の学生創作茶席グランプリ
受賞のご報告…………… 山下正太郎

コロナ禍での学生生活について…………… 濱崎礼菜
広島平和祈念卒業設計展2022の報告…………… 大呂直樹
大学での研究内容…………… 西名大作
新任理事自己紹介…………… （70回卒）田中透弥



住所録掲載可否についてのお願い

個人情報保護法の施行に伴い、住所及び勤務先届けに、各項目の建友会誌への掲載の可否を問う欄を新たに設けましたので、忘れずに、ご記入願います。尚、ご記入のない場合には、可と判断し、掲載いたしますので、予め、ご承知おき願います。

会費納入のお願い

建友会は会員各位の会費によって運営されています。是非とも会費の納入をお願い申し上げます。10年以上に渡って会費を滞納した場合には、本会誌が発送されなくなりますので、ご注意願います。年会費は2,000円です。

目 次

1. 会 告

□ 令和5年度建友会総会（東京）並びに講演会のお知らせ	4
□ 建友会誌表紙デザインの募集	6
□ 令和4年度総会（書面審議）報告	7
□ 令和4年度理事会（書面審議）報告	8
□ 理事等の交代	10
□ 新終身会員・名誉会員	11
□ 慶弔のお知らせ	12
□ 令和4年10月31日現在の会員数	12
□ 令和4年度事業並びに会計中間報告	13
□ 令和5年度事業並びに予算計画（案）	14
□ 建友会の抱える問題点と今後の活動について	15
□ 建友会の活動についてのご意見募集のお願い	17
□ 広告掲載ご協力をお願い	22
□ 会費の自動引き落としご協力をお願い	23

2. 寄 稿

□ 原爆ドームと相生通り ……（26回卒）建友会会長 河原直己…	24
□ 広島大学建築グループの近況報告 ……………建築グループ主任教授 大久保孝昭…	26
□ 築後41年、名護市庁舎の現状と、生き続けるための仕組み ……………（23回卒）内田文雄…	29
□ 日本建築学会主催の学生創作茶席グランプリ受賞のご報告 ……………（69回卒）山下正太郎…	32
□ コロナ禍での学生生活について ……………建築プログラム3年 濱崎礼菜…	34
□ 広島平和祈念卒業設計展2022の報告 ……（70回卒）大呂直樹…	35
□ 大学での研究内容 ……………（31回卒）西名大作…	38
□ 新任理事自己紹介 ……………（70回卒）田中透弥…	47

3. 同窓生近況	
□ 近況報告	(49回卒) 中谷 誠… 48
□ 社会に揉まれて、はや4年… ..	(65回卒) 長谷川峻也… 49
□ 近況報告	(69回卒) 松原拓土… 51
4. 役員・参与会員名簿	52
5. 学部新卒業生会員名簿	57
6. 大学院新修了生会員名簿	62
7. 広大建友会規約	65
8. 編集後記	(31回卒) 事務局長 西名大作… 68
	(43回卒) 事務局理事 中藺哲也… 68
	(47回卒) 事務局理事 高田 宏… 69
	(63回卒) 事務局理事 田村将太… 69
9. 広告案内	70

□ 令和5年度広島大学建友会総会（東京）並びに講演会のお知らせ

1. 日 時 令和5年1月28日（土）14:00～17:30
2. 場 所 千代田区日比谷図書文化館
日比谷コンベンションホール（大ホール）
住所：100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
3. 総 会 14:00～14:45
 - (1)河原直己会長挨拶 (2)令和4年度事業報告 会計報告
 - (3)令和5年度事業計画 事業予算 (4)事務局による広大の近況報告
 - (5)東京支部長の交替について
4. 講演会 原爆ドーム再生の物語 15:00～17:30
(工学同窓会関東支部との共催)
 - ・主催者挨拶、講師紹介（工学同窓会関東支部長、建友会東京支部長）
 - ・講演1：古川修文氏（元法政大学教授）
「原爆ドーム 再生の記録」
廃墟を平和と慰霊の聖堂に変えた世紀のプロジェクト
 - ・講演2：永田周太郎氏（緑山スタジオ・シティ社長）（41回卒）
TBSドラマ「広島 昭和20年8月6日」における産業奨励館の原寸による再現
5. 会 費 ￥2,000（交流会参加の場合+8,000円）
6. 事務局先生（広島から）
 - 西名大作先生（31回卒） 中蘭哲也先生（43回卒）
 - 高田 宏先生（47回卒）
7. 交流会（2次会） 場所：新橋亭 18:00～ 希望者参加
会費 ￥8,000（受付時に申し受けます）
総会・講演会終了後、会場を移しての交流会
8. 申込先 ・建友会東京事務局 E-mail: ken yukai.tokyo@gmail.com
担当：SMOK アソシエイツ一級建築士事務所
石丸正己（26回卒）
TEL：03-3357-3203 FAX：050-7527-9190
9. 連絡先 ・建友会東京支部長 内田文雄（23回卒）
(株)龍環境計画
TEL：03-3383-8673 E-mail：f-uchida@arch-ryu.co.jp
・広島大学建築学教室内 広大建友会事務局
TEL：082-424-7838、080-1920-9879

〈講演会〉原爆ドーム再生の物語

- 日時：2023年1月28日(土)15:00～17:30
(受付 14:30～ 開場 14:45)
- 場所：千代田区日比谷図書文化館地下1階
日比谷コンベンションホール（大ホール）
〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4
(同会場にて14:00～14:45まで広大建友会総会が行われています。)
- 費用：2,000円（交流会参加の場合+8,000円）
- 主催：広島大学建友会・工学同窓会関東支部



講演1 古川修文氏（元法政大学教授）

「原爆ドーム再生の記録」 廃墟を平和と慰霊の聖堂に変えた世紀のプロジェクト

原爆ドームの主治医と言われた故広大名誉教授 佐藤重夫先生を中心に、建設会社、化学メーカーなど、全国から結集した多くの技術者たちの奮闘の記録！ドーム保存から再生までの知られざる軌跡。

古川修文(のぶひさ)著「原爆ドーム再生の奇跡」南々社刊 は書店にて販売中です。

講演2 永田周太郎氏【建築41回卒】（緑山スタジオ・シティ社長）

TBSドラマ「広島 昭和20年8月6日」における産業奨励館の原寸による再現

原爆ドームの前身である広島県産業奨励館（物産陳列館）を廣大建築OBの永田氏が美術総指揮をとり、調べた資料を基に細部まで精巧に原寸で復元。2005年度映像技術賞受賞。

TBSドラマ「広島 昭和20年8月6日」はDVDが出ています。
松たか子主演 2005年 TBS系列局で全国放送されました。



日比谷図書文化館地下1階
日比谷コンベンションホール(大ホール)
<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>

都営地下鉄 ● 三田線「内幸町駅」 A7 出口/徒歩3分
東京メトロ ● 丸の内線「日比谷駅」B2 出口/徒歩3分
● 千代田線「有明駅」C4 出口/徒歩3分
JR 「新橋駅」日比谷口(SL広場)徒歩10分

〈お申込み・お問合せ〉

講演会参加希望の方は下記事項を記載の上メール等で

2023年1月15日までに申し込みください。

どなたでも参加頂けます。

氏名、フリガナ、学部学科、専攻、卒業年、
交流会(2次会)の参加・不参加

広大建友会東京事務局

E-mail kenyukai.tokyo@gmail.com

担当：石丸(SMOKアソシエーツ一級建築士事務所)

tel 03-3357-3203

fax 050-7527-9190

交流会（2次会・希望者参加）

どなたでも参加いただけます。

- 講演終了後 18:00～20:00（開場17:40～）
- 場所：新橋亭 <https://www.shinkyotei.com>
港区新橋2-4-2 TEL 3580-2211
※講演会場から徒歩5分。案内図は当日配布します。
- 費用：8,000円（円卓で個別の中華コース料理）
- 主催：広島大学建友会・工学同窓会関東支部

建友会誌表紙デザインの募集

デザイン募集	「建友会誌 Vol.66」（2024年 1 月発行）の表紙デザインを募集します。		
募集期間	応募締切 2023年10月31日 事務局必着		
応募資格	広大建友会会員又は広島大学建築グループ在学生		
賞	●最優秀賞（1点） 2万円 ※建友会誌の表紙に採用されます。 ●優秀賞（2点） 5千円 ●佳作（数点） 千円		
募集内容	【課題】 広大建友会誌の表紙デザイン 過去のサンプルを参考に表紙をデザインしてください。ただし、点線で囲まれる文字の情報は事務局で作成するため、変更できないものとします（ダミーの文字を入力してデザインしてください） 【提出物】 表紙面 1 枚（サイズ A5 版）のハードコピーまたはその pdf ファイル、および説明文（数行程度でよい） ハードコピーは返却しないので、必要な場合はあらかじめ複製を保管しておいてください。Adobe®Illustrator®等の電子データの場合は1M byte以下の pdf ファイルに変換して提出してください。  2020年 Vol.62  2021年 Vol.63  2022年 Vol.64		
申込方法	①氏名 ②所属（学年） ③連絡先住所 を明記の上、下記の連絡先に作品をおよせください。		
連絡先	〒739-8527 東広島市鏡山1-4-1 広島大学大学院先進理工系科学研究科 建築環境学 西名 大作（宛） Tel/Fax 082-424-7838、E-mail nishina@hiroshima-u.ac.jp		
審査員	広大建友会事務局		
審査結果	審査の結果は応募者に通知するとともに、最優秀賞は『建友会誌 Vol.66』2024年 1 月発行の表紙に採用され、入賞者は建友会誌に掲載されます。		

皆様からの斬新な作品をおまちしております

□ 令和４年度建友会総会（書面審議）報告

令和３年度に引き続き、令和４年度広大建友会総会は書面審議となりました。建友会誌に綴じ込んだ住所変更届の連絡用の葉書を使用して、下記の議題１～議題６について、会員の皆様方に賛否をおうかがいさせていただきました。

議題１：令和３年度事業、並びに、会計報告

議題２：令和３年度会計監査報告

議題３：理事、事務局等の交代について

議題４：建友会規約の改正について

議題５：令和３年度理事会報告（書面審議）

議題６：令和４年度事業、並びに、予算計画

３月15日（火）までに賛否をお知らせいただきますようお願いしていましたが、３月15日（火）までに記入したとの記載があったもの、並びに、当日消印有効で届いたものが43枚、その後に届いたのが６枚でした。その結果、総会にご参加いただいた皆様方全員から、ご承認、ご賛同が得られましたので、上記のいずれの議題につきましてもご承認いただけたものとさせていただきます。

皆様のご協力に感謝申し上げる次第です。

□ 令和4年度建友会理事会（書面審議）報告

令和3年度に引き続き、令和4年度広大建友会理事会は書面審議となりました。諾否を依頼した議事内容は次の通りになります。

議題1：理事、事務局等の新任・交代について

会長、東京支部長、広島支部長の交代のほか、第7回、第9回の理事交代（継続審議）、第70回の新任理事についてご承認下さい。

議題2：令和4年度事業並びに会計中間報告について

コロナウイルスにより理事会を書面審議としたほか、2022年度日本建築学会大会（北海道）もオンライン開催となったため、大学院生への学会出席旅費補助を支出していません。現状についてご承認下さい。

議題3：令和5年度事業並びに予算計画（案）について

令和5年度総会については、懇親会の併催はせず、代わりに講演会を開催させていただく方針のため（議題6に関連）、旅費を計上しております。また、学生からの卒業時の会費納入に支障が生じている現状をふまえ、会長、並びに、事務局で検討させていただいた結果、在学生へのアピールが促進されるような企画を立案、試行することを可能とするため、事業計画に「在学生の教育・研究に対する援助」の項目を、予算計画に「会長裁量経費」の費目をそれぞれ新たに追加させていただきました。ご承認ください。

議題4：新終身会員、名誉会員について

新終身会員の皆様について、ご承認下さい。

議題5：建友会誌 Vol.65について

建友会誌 Vol.65の目次構成案について、ご承認下さい。今号は全会員の名簿は掲載しません。Vol.63では理事特集を組みましたが、令和5年度は久々に総会を対面で開催させていただく方針のため、新たな企画はありません。なお、総会開催の案内のため、今号は本年12月末、あるいは、年明けすぐの発送とするため、原稿

の提出締切を10月末としております。また、同窓生近況の執筆者人選の依頼、広告出稿依頼についてもご確認ください。

議題 6：令和 5 年度建友会総会について

令和 5 年度総会（東京）は、日中に開催する講演会との併催とさせていただくこと、そのため、これまでの金曜夕刻からの開催を、土曜午後の開催とさせていただくこと等、原案について、ご承認下さい。

上記議事内容、並びに、関連する資料を、10月 5 日（水）に送付し、10月 21 日（金）を期限として、諾否について回答を求めましたが、第 1 回～第 70 回の各期理事のうち、2 名の理事（第 7 回、第 9 回）は後任が決定しておらず、5 名の理事については連絡先がわからず送付できませんでした。また、1 名の理事については送付した資料等が宛先人不明のため返送されました。残る 62 名の理事のうち、21 名の理事から書面で回答が寄せられ、全員から全ての議事内容についてご承認をいただくことができました。

送付にあたって、書面による回答のない理事については、議事内容についてご承認いただいたものとみなす旨を記していたため、結果としては、資料等をご確認いただいた 62 名の理事全員からご承認をいただけたこととなりました。

なお、今回は上記議事内容のほかに、建友会の現況を簡単に説明させていただいた上で、各期理事から自由に意見を求めました。その際、添付した資料については、別稿「建友会の抱える問題点と今後の活動について」として、掲載しております。また、各理事からいただいたご意見につきましては、別稿「建友会の活動についてのご意見募集のお願い」に掲載しております。それぞれご参照ください。

□ 理事等の交代

○ 会長の交代

・ 26回 河原 直己→34回 長光 信治

○ 東京支部長の交代

・ 21回 青山 和憲→23回 内田 文雄

○ 広島支部長の交代

・ 28回 宮地 正人→27回 井筒 俊樹

○ 各期理事の交代

・ 7回 中野 幹也→人選中

・ 9回 幸原 實→人選中

○ 新任各期理事

・ 70回（令和4年3月卒）…田中 透弥（広島大学大学院）

□ 新終身会員・名誉会員

平成16年度の総会において建友会規約が次のように改められました。

建友会規約第11条

第 11 条 入会後40年以上を経過し、かつこの間を含め50年分の年会費を完納した正会員を、終身会員とする。また、本会の目的達成に顕著な貢献をした終身会員もしくは年会費10年以上の寄付を行った終身会員には、理事会の推薦により、名誉会員の称号を贈る。終身会員、名誉会員の会費は、これを免除する。

この規約に則り、新たに終身会員になられた方を紹介いたします。尚、名簿中では、お名前の左側の記号が○印の方が終身会員、◎の方が名誉会員です。

・新終身会員

工学部卒業

第16回 武田 和夫

第17回 片山 一明

第20回 島田 克司

第21回 岡田 勝巳、蓼原 眞一、中川 英治、藤岡 憲三、吉山 耕成

第31回 西名 大作

修士課程修了

第 9 回 寺岡 勝

以上 10名

☐ 慶弔のお知らせ

○ 会員訃報

甫出 為彦（1回）	令和4年1月30日	没
二本垣 守（4回）	令和2年4月15日	没
清水 尚徳（7回）	令和4年3月18日	没
土屋 健（12回）	令和4年2月2日	没
西山 充（16回）	令和3年1月12日	没

☐ 令和4年10月31日現在の会員数

学部卒業時入会者……………	3038名
修士修了時入会者……………	5名
博前修了時入会者……………	156名
博後修了時入会者……………	52名
合計	3251名（内逝去者 176名）

□ 令和４年度事業並びに会計中間報告

○ 令和４年度事業中間報告

- １） 令和４年１月１日 建友会誌 Vol.64発行
- ２） ２月28日 総会の開催（書面審議）
- ３） ３月１日 広島平和祈念卒計展の後援
- ４） ３月23日 建友会誌表紙コンテスト表彰
- ５） 10月１日 理事会の開催（書面審議）

○ 令和４年度会計中間報告（R4. 1. 1～R4. 9. 30）

令和４年９月30日現在

収 入		支 出	
前年度繰越金	4,096,545	会誌印刷・郵送	1,521,300
会費・入会金	1,818,000*	総会補助	0
・振替振込分	585,000*	卒業設計展補助	50,000
・自動引落分	195,000	学生旅費援助	0
・現金徴収分	30,000*	卒業証書ホルダー	62,220
・新卒者分	1,008,000	同期会通信費補助	0*
・総会徴収分	0	表紙コンテスト賞金	30,000
預金利子	13*	慶弔費	0*
広告料	0	理事会費	0
寄付金	4,000	文具・通信費・謝金	39,232*
		・会費徴収費	24,420*
		・謝金	3,000*
		・通信費	9,875*
		・文具・雑貨費	1,937*
		次年度繰越金	4,215,806*
総 計	5,918,558*	総 計	5,918,558*

* 印は９月30日段階では未確定

（単位：円）

□ 令和5年度事業並びに予算計画（案）

○ 令和5年度事業計画（案）

- 1) 建友会誌 Vol.65発行
- 2) 会費の督促
- 3) 卒業設計展の後援
- 4) 学生の学会出席旅費の補助
- 5) 同期会通信費の援助
- 6) 建友会誌表紙コンテストの開催
- 7) 総会・懇親会の開催
- 8) 在学生の教育・研究に対する援助
- 9) 慶弔

○ 令和5年度予算計画（案）

収 入		支 出	
前年度繰越金	4,215,806*	会誌印刷・郵送	800,000
会費・入会金	1,800,000	総会補助	250,000
預金利子	20	卒業設計展補助	50,000
広告料	50,000	学生旅費援助	250,000
		卒業証書ホルダー	70,000
		同期会通信費補助	10,000
		表紙コンテスト賞金	30,000
		慶弔費	50,000
		理事会費	100,000
		会長裁量経費	200,000
		文具・通信費・謝金	100,000
		次年度繰越金	4,155,826*
総 計	6,065,826*	総 計	6,065,826*

* 印は9月30日段階では未確定

(単位：円)

□ 建友会の抱える問題点と今後の活動について

理事会（書面審議）に際して、各理事にお送りしご意見を頂戴した建友会の現状についての簡単な紹介になります。

1. 在学生への還元について

現在、在学生から、卒業・修了時に10年分の会費として一律18,000円を徴収しておりますが、建友会に入会したくないし、会費を支払いたくないという学生が近年、増加する傾向がみられます。在学生からの年会費によって建友会の活動の多くが担われている状況を考えますと、在学生への建友会に対する認識や理解をますます促進する必要があるものと考えられます（これには近年のコロナウイルス蔓延により、日本建築学会大会が3年にわたって対面では開催されず、学会出席旅費援助が支出できていないこともあろうかと思われます）。このため、在学生への還元を考え、来年度予算には会長裁量経費を計上しておりますが、具体的にいかなるアイデアが考えられるか、お考えいただければ幸いです。

2. 建友会誌の名簿について

建友会費の多くは建友会誌の発行に充てられており、とりわけ2年に1回の全会員名簿については大きな負担となっております（会誌に名簿がない場合の印刷・発送費が約80万円であるのに対して、名簿がある場合は約150万円）。個人情報保護が重視される社会情勢の変化もあり、名簿への掲載を拒否する傾向も、特に若い会員の中で強まっております（名簿の空欄は、情報が取得できていない場合もありますが、本人の希望による場合もあります）。このように名簿の存在意義が以前にもまして問われる現況において、今後も会誌に名簿を掲載する必要があるか、仮に名簿を掲載しない場合、名簿を必要とする会員に名簿をどのような形で提供するか、あるいは提供しないか等、お考えいただければ幸いです。

3. 建友会事務局の体制について

現在、建友会事務局は、建築プログラム内に西名大作（31回）、中藺哲也（43回）、田村将太（63回）が在籍し、学部は異なりますが高田宏（47回）が学内におり、近隣の大学から松本慎也（43回）、光井周平（54回）にご協力をいただいております。しかしながら、会員数のますますの増加（10年でおおよそ500名の純増）によって、特に会計と名簿の事務作業量は膨

大であり、事務局の負担は増加の一途をたどっております。これに加えて、2025年度をもって西名が退職することから、その後の体制のあり方は喫緊の課題と言えます。

これについては、最近、同窓会の事務作業を代行する会社組織があるようです（別添の資料参照）。まだ事務局も詳細について確認できておりませんが、場合によっては会計や名簿などの事務作業を委託する可能性もあるのではないかと考えられます。

4. 副理事の設置について

現在、第7回、第9回の理事が空席であり、後任が決まっておりません。このような状況では各回の同窓生の皆様のご意見が理事会で反映されず、ひいては理事会そのものの開催も危ぶまれるような状況に至るものと考えられます。したがって、現在の理事に何かあった場合に代行可能な副理事を、予め設けておくとういのではないかと意見があります。この点について、ご意見を頂戴できれば幸いです。

□ 建友会の活動についてのご意見募集のお願い

先にご紹介させていただきました「建友会の抱える問題点と今後の活動について」の記事をご参照いただき、会員の皆様方から広くご意見を頂戴できればと考えております。簡単な内容でしたら、綴じ込みの総会への出欠をご回答いただく葉書にお書きいただければ結構です。ご意見が長くなる場合は、お手数ですが、別途、ご郵送いただくか、あるいは、事務局長の西名宛（nishina@hiroshima-u.ac.jp）にメールでご連絡いただいても構いません。

建友会の現状に関する資料に対して、各期理事からいただいたご意見を順不同で以下に列挙させていただきます。貴重なご意見をお寄せいただいた各期理事の皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。会員の皆様方からのご意見に、これらご意見を加えて、事務局としましてもさらなる検討を進めさせていただきます。

1. 在学生への還元について

- ・ 建築プログラムの在学生に対し、OB 生を大学に招き、社会での活動、研究などを発表する場を設け、研究会の PR、卒業生の結びつきを強めるなど、イベントを考えるべし。
- ・ 金銭に対する還元は会長裁量におまかせ。建友会入会のメリットとして、社会に出てからは、会誌により先輩達がどんな人生を送っているのか、うかがい知ることができる、また、ゴルフをするようになれば、建友会主催の親睦ゴルフコンペに挑戦することもできる、等々、入会のメリットを伝える。
- ・ まず、卒業・修了時に10年分¥18,000を徴収するのは学生にとって酷かと思います。せめて5年分¥10,000にしていかがでしょうか。その上で在学生への還元を考えては。建友会の存在を在学生に知らしめるため、まずは入学時に新入生歓迎会（会食）を開いて、会長が挨拶をし、建友会の存在をアピールする。卒業時にも卒業祝賀会（会食）を開いて建友会をアピールする。企画は在校生（2・3年生）にしてもらい、費用は建友会が負担する（会食は軽食）。
- ・ 2年次の建築クラス決定時の飲み会（祝い）に、いづらか補助してみてもどうか。
- ・ 学会の他に、学生に対して他都市（他県）で行われる講演会、シンポジウム、研究活動に関する旅費を支給することも考えられます。
- ・ 学会発表だけでなく、クラス会への支援を考えてはどうか。

- ・ 公の学生向けプロポーザルの受賞者への建友会独自の報奨金を出すことによる励み、応援というのはいかがでしょうか。
- ・ 学生が主体となり企画する交流イベントなどに助成することはできないのでしょうか。
- ・ 各研究室に補助金として与えてみては？ 昨年度の研究業績など加味して。
- ・ 会長裁定はよい計画です。
- ・ 在学生が会費など納めることそのものを止め、「学生の研究活動をOB・OGが支援する」のが建友会という立ち位置にしてはどうか（そもそもOBOG会は一般的にそうでは？）
- ・ 現在の学生の活動状況、彼等の意識、求めているものが分からないので意見はありません。
- ・ 良いアイデアが思いつきません。すみません。
- ・ 何を書いても昔話になりますが。工学部に在職中、ウチには立派な同窓会があるよ、と建友会名簿を見せたら、ビックリして喜んだ。いい大学に来たと思ったみたい。結局、「誇り」が人生の（大学の）すべてなんだけどね。

2. 建友会誌の名簿について

- ・ 名簿を掲載しない。名簿の提供もしない。
- ・ 名簿の提供は不要と考えます。事務局側が把握しておけばよいと思います。または有料化するか（必要な人について）。5年に1回発送とするとか。
- ・ 撤廃すべきかと思われます。不特定多数の人に閲覧されるリスクは避けるべき。理事（副理事）は窓口となって、連絡をとれるようにするといいいのでは。
- ・ 卒業生達が大学及び卒業生の現況を知るのは唯一会誌であることは間違いない。しかし受取の一時、情緒的に閲覧するだけがほとんど。名簿を積極的に利用、活動する人はほとんどいないと思われる。多大な労力と費用をかけ続ける必要はないのでは。会誌の一般的部分は配布しても、名簿そのものは希望者のみにウェブ配信では？
- ・ 例えば会誌への名簿掲載を止め、名簿についてはホームページで有資格者のみ閲覧することができるようにはできないでしょうか。
- ・ 会誌の発行を取り止め、建友会のHPを立ち上げてはいかがかと思います。HPに建友会誌の記事、名簿を掲載し、会員はパスワードと名前

(ID)を入力することにより、HPを見られるようにしてはいかがかと思います。なお、HPの開設・維持メンテナンスは、3.の同窓会の事務作業を代行する会社に委託する。

- ・名簿は10年に一度ぐらいの発行で。ネット上の安心できるサーバーに置いて、必要な人がパスワードを使って使用できるようにすればよいのでは。
- ・つながりを持つ趣旨から就職先の掲載は必要と思いますが、特に自宅住所の掲載は全面的に止めてもよいのではないかと思います。
- ・名簿については、卒業回、氏名、所属ぐらいでよいかもしれません。必要な方には実費（印刷（コピー）、郵送等）で配布することが考えられます。その際に秘匿事項は守ることが求められます。
- ・希望者のみに名簿を提供する。
- ・全会員名簿は5年に1回でも良いのではないかと。名簿を必要とする会員に特別の対応はしない。
- ・会の目的は金銭の留保ではないことは当然であります。現在の2年に1回の名簿作成でよいと思う。
- ・名簿作成など、外部へ委任してもよい。
- ・CDやSDカード配布にしてはどうか。
- ・いつもすばらしい出来ばえだと思っています。

3. 建友会事務局の体制について

- ・事務作業を委託する。
- ・委託を考えた方がよい。
- ・事務作業の外注化も可。
- ・外部委託も必要かと思います。
- ・事務作業の委託は可能と思います。
- ・事務については外部委託したらどうか。
- ・事務作業が減らせる対応を（外部委託もOK）
- ・持続可能な事務局の運営のため、委託の可能性を検討することは賛成です。
- ・同窓会の事務作業を代行する会社に事務作業を委託することには賛成します。
- ・事務局の多大な労力を減らすべき。代行業者への委託ができればその方がよいのでは。
- ・少しでも外注するべきかと思います。お金はかかりますが、事務局の先

生方の時間に余裕ができるなら、これ以上のことはありません。

- ・西名先生の力に頼りすぎている現状は変化させるべきでしょう。
- ・西名先生にはご苦労、ご心配をおかけし、申し訳なく思っています。一部、民間委託も選択肢の一つだと思います。私の出た高校の同窓会名簿の作成は民間で行っているようです。
- ・事務局の苦労は大変だと察します。無理なく対応できる方策で良いと思います。
- ・「皆んなでする」のは大変ですね。私は苦手。でも皆さんよくやっているといます。

4. 副理事の設置について

- ・必要と思う。
- ・宜しいかと思います。
- ・副理事の設置については賛成します。
- ・原則、副理事を置くことについては賛同します。
- ・確かに不測の事態も考えられるので必要かと思います。
- ・今後、副理事設置の必要性は増してくると思われ、賛成です。
- ・副理事は理事に指名させるとよい。
- ・二人でやりたいという申し出があれば、やったらいい。
- ・副理事もよろしいと思うが、理事は理事会出席のため、広島在住の人に限られる。高齢のOBになれば人も少なくなり、いずれ理事のいない年度生が多くなると思われる。
- ・高齢になれば建友会に対する関心は薄れ、理事の交替、または、副理事を新たに決めると言っても、引き受ける人はまず居ないと思います。高齢の場合は理事の空席は止むなしでも良いのではないのでしょうか。
- ・高齢化すると副理事あるいは代行者を決めておいてもどちらが長生きするかわからない。
- ・よいと思いますが、年輩の方ほど選定が難しいと思われます。同期の人でも親交がうすれているため（特に広島県内、市内に限定した場合）。
- ・反対ではありませんが、個人的には不要かと（自分で十分に任務遂行できているので）。正直、西名先生よりも学年がかなり上の方は必須ではなく、有志で理事として活動でよいのでは（ご高齢なので）。若手がだらしのないのであれば、副理事の有無、検討したらいいと思います。
- ・広島に在住している会員から、理由なく名簿順に理事就任をお願いしてもよい。引き受けてくれると思いますよ。

- ・理事会に欠席の場合には、できるだけ代理出席していただく。

その他

- ・在学生への建友会 PR を「卒業設計展補助」(予算)を大幅に増やす(20万円など)
- ・「卒業設計展」を建友会誌、大学のホームページ等で PR し、我々卒業生も見学できるようにしてほしい。
- ・昭和50年頃「建友会」を廃止しては?の議論がありました。私は先輩に対し大反対しました。
- ・同窓会が誇れるのは、人生がうまくいった卒業生だけ。三割ぐらいで三割がアンチ、中の四割がどちらにしようかと迷っている。
- ・建友会の維持は会員であるメリットは何かが根本的な問題と思う。建設業界の黄金時代は同窓生として就職面、業務の連携、協力等のメリットは大いにあったと思われるが、その後の業界の変化も激しく、卒業生が建設以外の業界へ進む人が多くなっている。建友会の存在意義を考える時期かも。
- ・会費納入を郵便局にわざわざ行かなくても済むように、ネットで振り込みできるようにして頂けるとありがたいのですが。あるいは、郵便局は時間制限があるので、コンビニで振り込めるようにして頂けるといつでも振り込めるのでありがたいです。
- ・広大建友会 HP を立ち上げ、そこに会誌を UP する! これも外注してシステム立ち上げてみては? 長い目で見れば郵送費削減かつ届かなくて困る、というのも無くなるので、十分おつりがくると思います。かつ個人情報もまもられるかと。
- ・とにかく若年学生の負担をなくす、助けをする団体に建友会はなって欲しいと思っています。でなければ「入会したくない」という意見は増える一方です。名前だけ載せても意味がない。

□ 広告掲載ご協力をお願い

広告掲載状況の推移

今回の広大建友会誌の広告掲載は久々に3件のご協力をいただくことができました。広告掲載にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。一方で、建友会誌への広告掲載は近年低迷傾向にあり、次回以降についても予断を許さない状況です。広告料の減少は逼迫する本会の財政を更に悪化させる要因となっており、早急なる改善が望まれます。

広告掲載方法

1ページ全面広告に加えて、1/2ページと1/4ページサイズの広告を募集しております。掲載料金は以下の通りです。

1ページ広告（A5サイズ）	50,000円
1/2ページ広告（名刺2枚分）	30,000円
1/4ページ広告（名刺1枚分）	20,000円

危機的な広告掲載状況を打破するため、有望な広告掲載依頼先をご紹介しますよう、会員各位にお願い申し上げます。広告掲載に関するお問い合わせは下記の担当者までご連絡ください。

担当 光井周平（54回・広島工業大学環境学部建築デザイン学科）
電話／FAX（082）921-5413
E-mail s.mitsui.hu@cc.it-hiroshima.ac.jp

追記 本会会員の皆様、特に各期理事並びに諸先輩の皆様の一層のご協力なしには事態の改善は毛頭望めません。何とぞ強力なご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

□ 会費の自動引き落としご協力のお願い

建友会は、会員の皆様からの会費によって運営されています。毎年、年会費の納入にご協力いただき誠にありがとうございます。

建友会費は、振込用紙による支払いも可能ですが、手数料のかからない口座からの自動引き落としのご利用をおすすめしています。お手持ちの金融機関（ほぼすべての都市銀行、地方銀行、信用組合、信用金庫、郵便局）の口座から自動引き落としでお支払いいただけます。

現在、建友会への会費支払いの方法のほとんどが郵便局での支払いです。しかし、この方法では、会員の皆様方それぞれに郵便局まで出向いていただかなければなりませんし、会費の他に手数料をお支払いいただかなければなりません。また、「支払うつもりはあるのだけれども、つい忘れてしまった。」とおっしゃる会員の方も少なくありません。

自動引き落としにしていいただければ、会員の皆様に郵便局までわざわざ出向いていただくことはありませんし、払い忘れもありません。また、自動引き落としの場合の手数料は建友会が負担することになりますので、手数料を支払うこともありません。会員の皆様に、是非、この会費支払い方法を選択されることをお願い申し上げる次第です。

ご希望の方は、下記までお問い合わせいただければ、口座引き落としの申請用紙をお送りいたします。この申請用紙に必要事項をご記入いただき、ご返送いただければ、次年度から、会費支払いに伴う様々な不便や煩わしさから解放されます。是非、ご活用の方よろしくお願い申し上げます。

既に自動引き落としを希望され、申請用紙をご記入・返送いただいていない会員の皆様へお願いです。お手元に広島建友会事務局からお送りした申請用紙をお持ちでしょうか。もし申請用紙を紛失してしまった場合は、再度ご連絡いただければ、申請用紙を再送いたしますので、ご連絡の方よろしくお願い申し上げます。

・自動引き落としの申込み、および、申請用紙の返送先

〒739-8524 広島市鏡山一丁目1-1

広島大学大学院人間社会科学研究科 人間生活教育学領域
高田 宏（広島建友会事務局 会費自動引き落とし担当）

TEL：082-424-6855 FAX：082-422-7133

e-mail：takatah@hiroshima-u.ac.jp

2. 寄稿

□ 原爆ドームと相生通り

建友会会長 河原直己



令和5年に広島市でG7広島サミットが開かれます。世界情勢が不安定な中、被爆国として、また地元出身岸田首相のもとで、どのような平和に対するメッセージが発せられるのか期待しています。

さて、建友会の総会が対面式で3年ぶりに開催されます。今回は、2年続けてコロナ禍のため開催を断念せざるをえなかった東京で行われます。久々に会員の皆様に対面で会談できることを楽しみにしています。また、コロナ対策として総会後は飲食を

伴う懇親会は実施せず講演会を行います。講演会には2人の講師に原爆ドームに関するお話をいただきます。まず講師のおひとり、古川修文氏ですが、故佐藤重夫先生が原爆ドームの保存を手掛けられた時の記録等を「原爆ドーム 再生の奇跡」としてまとめられ、今年の夏に出版されました。保存工事の中心を担った佐藤先生や関係者が何を考え、どのように行動したのか、とても興味深いです。もうひとりの講師は41回生の永田周太郎氏です。十数年前にテレビ放映され話題となった松たかこさん主演の「広島・昭和20年8月6日」において、美術担当として実物大で原爆ドームの前身である広島県産

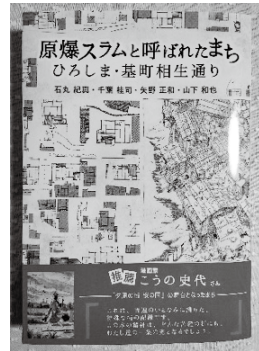


中国新聞 2022年9月26日朝刊

業奨励館を再現しました。若き永田氏が、あの8月6日以前の建物や街に対してどのような想いを込めて舞台セットを作成したのか興味深いお話を聞かせていただけるものと期待しています。

なお、この講演会は工学同窓会との共同主催で、幅広く多くの方に御参加いただけます。これらの新しい試みは、東京支部長をはじめ支部の皆様のご尽力の賜物であると感謝いたします。ありがとうございます。

さて、この機会を借りて講演会の話とは別に、原爆ドームに道路を挟んで隣接する相生通りの話をします。こうの史代さんが描いた「夕風の街、桜の国」の舞台にもなった、いわゆる原爆スラムと呼ばれていた場所です。今は街の痕跡はなく本川の河川敷として市民の憩いの場になっています。そこにかつて存在していた相生通りの調査記録が「原爆スラムと呼ばれたまち ひろしま・基町相生通り」と題し石丸紀興先生、千葉桂司氏（17回）、矢野正和氏（17回）及び山下和也氏（28回）により、去年の夏に出版されました。本を読ませていただいた時、私が



在学中に石丸先生の授業で、この街を初めて間近で見た時の記憶が鮮明によりみがえりました。その当時は、カープ初優勝で湧く市民球場や基町地区再開発で入居が進められている基町高層アパート群の狭間で、相生通りの一部が解体され始めた時期でした。石丸先生から「濃密な住空間を形成してきたこの街をよく見ておくように」と言われたことを記憶しています。

原爆ドームと相生通り。そこに人々の営みがあったという記憶を残し継承することは、被爆地広島にあっては特に重要だと思います。佐藤先生の前原爆ドームの保存と佐藤先生と親しい古川氏による保存の記録、永田氏の広島県産業奨励館や街並みの映像による再現、そして石丸先生達の相生通りの調査記録、その方法は様々ですが、関係された皆様に改めて敬意を表す次第です。

さて、最後になりますが、私は次の総会をもって辞任させていただきます。同窓生の皆様、理事の皆様には、様々なご指導ご助言を賜りお礼申し上げます。また西名事務局長をはじめ事務局の皆様には大変なご尽力をいただき感謝いたします。今後は、新しい会長のもと、一会員として建友会にお役に立てればと考えています。5年間、誠にありがとうございました。

□ 広島大学建築グループの近況報告

2022年度建築グループ主任 大久保 孝 昭

2022年度の建築学プログラム長、建築グループ主任を務めております大久保です。建友会会員の皆様におかれましては元気にご活躍のことと存じます。

一昨年の田川先生、昨年の西名先生のご報告にありますように、広島大学は近年、大きな改組がなされ、さらに大型の予算獲得、地域・産学との連携強化により次々に新しい施設整備が進んでいます。今年度、本学にいらっしゃった方は、昨年本誌で西名先生が紹介されたミライクリエに、「こんな施設が自分の学生時代にあればよかった！」と思われたことと存じます。現在は広大中央口に交通結節点となる施設や空間が施工されており、本誌が皆様に届く頃には竣工が近い時期となっています。この施設は田中先生が大学院講義の中で実施された課題で、皆様の後輩である大学院生がマスタープランを作成したものです。また、この3月にはE3棟に3次元振動台が設置されることが決まり、現在、森先生を中心に仕様確定など詰めの作業が進められています。決して大型ではありませんが、試験体レベルの実験には手ごろなサイズであり、構造系の研究活動を活性化させるものと期待しています。次年度以降も次々と大型施設の建設されることが決定しており、変貌を遂げる過程の広島大学キャンパスを見るために、是非、本学にお越しいただければ幸いです。教職員・学生一同、鶴首してお待ちしております。

例年、報告されている教職員の異動について、本年度はご報告することはなく、昨年度と同様の体制で教育・研究に取り組んでいます。そこで、昨年10月に作成した建築学プログラムの紹介を抜粋して示したいと存じます。これは建築学プログラムのアクティビティを学内でアピールすることを主眼として作成したもので、筆頭のアピールは建友会会員の皆様のお陰で記載することができました。以下にその内容を淡々と記載しています。ご笑読いただければ幸いです。

卒業生の一級建築士の合格率の高さ

一級建築士の合格率は受験者全体で12%程度であり、最難関の国家試験と言える。表1に2015年度以降の旧帝大と本学の卒業生の合格者数の推移を示す。また、図1には、各大学の定員に対する合格者の年度平均の割合を合格率と仮定した結果を示している。本学の卒業生の合格率は70%を越えており、この傾向は約20年遡った集計結果でも同様であり、本学の教育および卒

業生のレベルの高さがうかがえる。

建築を目指す若者（高校生）の多さと女性建築技術者の活躍

大手私立大学では工学部から独立した「建築学部」を近年作っており、このことは多くの高校生が建築技術者を目指していることを表している。また、我が国における女性建築家の活躍は特筆すべきものがあり、本プログラムにも3名の女性教員が在席し、工学系としては特筆できる。またプログラムへの女子学生の人気が高く、例年、建築学課程では、定員45名に対して15名～20名の女子学生が勉学に励んでいる

積極的な地域貢献活動の重要性

衣食住の3要素の一角を担う建築は人に身近な分野であるため、地域からの協力要請が多く、これに応えることは建築プログラムの使命と考えている。2020年度～2022年度の3ヵ年で、16名の教員が、国（国交省／経産省／環境省）、広島県、東広島市などからの要請により延べ80件の委員委嘱を受けて、地域環境の向上や地域活性化事業に取り組んでいる。

在学生の積極的な課外活動と受賞

建築学プログラムの学生は、研究活動に加えて、地方自治体や学協会による設計コンペにチャレンジし、優秀な成績を挙げている。2020年度～2022年度の3ヵ年で、日本建築学会および日本都市計画学会での優秀修士論文賞、日本建築学会「銀茶会の茶席」設計コンペでの入選などを初め、全国レベルの表彰で27件・62名の学生が受賞している。

教員の社会アピール

教員は研究のみならず、社会活動による貢献を持続的に行っている、2020～2022年度の3ヵ年で、国土交通大臣表彰、公共建築賞（地域特別賞）を含め、8件の表彰を受けており、広島大学の名を対外的にアピールしている。日本建築学会中国支部長も数年連続で本学教員が務めており、建築プログラムの将来を支える若手教員も国際会議での受賞や日本都市計画学会での奨励賞を受賞している。

科研費の獲得

2020年度～2022年度の3ヵ年において、いずれか、あるいは複数の年度で16名の教員全員が、研究代表者として科研費を受給している。内訳は、基盤A（1件）、基盤B（7件）、基盤C（6件）、挑戦的萌芽（5件）、若手（4件）となっている。建築学プログラムに所属する教員全員ということが特筆すべきことと考えており、今後も一層、努力を続けたい。

共同研究・受託研究

2020年度～2022年度の3ヵ年において、民間や自治体等との共同研究は、

24件を締結している。中には研究費が500万円以上の共同研究もあるが、建築学プログラムの教員が実施責任者として共同研究講座を設立したことがないため、今後はさらに産学連携活動を積極的に取り組みたいと考えている。受託研究については、2020年度～2022年度の3ヵ年において、東広島市、三原市などの自治体やゼネコンからの委託を受けて、17件の受託研究を実施してきた。

コロナ禍はまだまだ続くと予想されています。建友会会員の皆様におかれましては、健康にご留意されて、益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。また、引き続き、母校の教育・研究へのご指導とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様からのご連絡をお待ちしております。

表1 一級建築士の合格者数

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
広島大学	40	29	36	28	26	38	37
東京大学	36	40	38	29	29	34	33
京都大学	47	46	56	47	37	55	56
名古屋大学	29	24	25	31	25	35	31
九州大学	43	61	44	45	53	67	44
北海道大学	31	34	25	29	32	27	23
大阪大学	30	23	39	23	29	36	20
東北大学	24	31	32	37	26	38	33

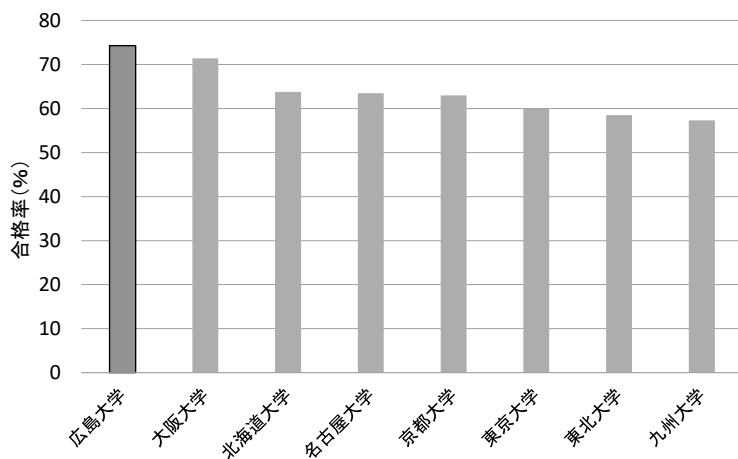


図1 一級建築士の合格率 (%)

(2015～2021年度の集計、合格率は文章中の仮定に基づく)

□ 築後41年、名護市庁舎の現状と、生き続けるための仕組み

23回 内 田 文 雄



私は、昭和50年に広島大学工学部建築学科を卒業した後、早稲田大学の大学院に進学し、ル・コルビュジェの弟子である吉阪隆正先生の研究室で建築と地域計画について学んだ。修士課程修了後は、研究室の先輩たちがつくった象設計集団に仕事の手伝いの延長のようなかたちで入所した。象では、地域固有の風土やくらしの文化、自然環境と連続する建築のかたちを考えることの重要性や、建築に向き合う姿勢について、基本から叩き込まれた。

・沖縄県名護市庁舎の設計を担当

そんな中、名護市庁舎のコンペが開催され、応募準備の段階から関わり、幸運なことに最優秀に選ばれ、実施設計、設計監理での現場常駐まで、4年にわたり関わることができた。名護市庁舎のコンペは、名護市が全国の建築家に対して、市民自治の拠点としての市庁舎はどうあるべきか？ 亜熱帯の沖縄での建築の姿はどうあるべきなのか？ についてその答えを形姿として提案することを求めたものであった。この本質的で挑戦的な問いかけに、多くの建築家が心を動かされ、最終的に308もの提案が集まった。中でも、中央に対峙する地域自治の拠点としての市庁舎の姿を描くこと、安易に機械冷房に頼らないで快適な環境をつくる工夫など、地域の時代や環境の時代を先取りした視点での提案が求められた。

我々の提案は、海沿いの敷地において海から山への固有の風の流れ、中心市街地との人の流れなどを分析しながら、南面は、大きなファサードで構え、市街地につながる北側は、段々状にセットバックし、次第に市街地のスケールに馴染んでいく建築としての構えをつくった。その大きな骨組みの上に、断熱、遮光を工夫し、室内に「風の道」を通して通風、放熱を促す仕組みを組み合わせることで、竣工時には、外気より3度も低い室内環境を実現することができた。

また、戦後、米軍の基地建設を契機に広がったコンクリートブロック技術を様々な形に展開することで、デザインとしての統一感をつくり出している。1981年4月に竣工し、当初、冷房を入れていない省エネ市庁舎、沖縄の地域性を表現した建築として大きな話題となり、1982年に日本建築学会賞の作品賞を受賞した。

・竣工から41年、顕在化する課題

竣工から41年が経った。人間でいえば、バリバリの働き盛りであるが、建築的には様々な課題が見え始めている。一般的に、沖縄のコンクリート建築の寿命は短い。海砂を使わざるを得ない状況があるのでコンクリートの中性化が進行しやすいことが原因だが、鉄筋の錆による爆裂が認められるようになってきた。近年、戦後に建てられた名建築が次々に壊されているが、建築を大事に使うという意識が薄いことも大きな原因のひとつであるような気がする。さらに、庁舎建築は、年月を重ねると書類などが増え続け、収納力が不足してしまう。また、国体などのイベントが開催されると職員数も増え、空間自体が不足し手狭な状況となっている。将来的に、収納量の増大に対する準備が不足していたのは悔やまれることである。また、近年、ICT化への対応も大きな課題となっている。

コンペの設計条件であった「冷房をいれなくて過ごせる庁舎」という課題に対しては、設計当時は、庁舎内で働く職員は、ほとんど個人的にパソコンを使う状況ではなかったのだから達成できていたが、あっという間にパソコンが普及し、各自が発熱体を作業机の上に抱えることになり、温熱環境的に冷房なしでそのまま過ごせる状況ではなくなってきた。そのような時に、沖縄サミットが開催され、会議終了後プレスセンターに使ったルームエアコンが大量に破棄されるということで、名護市はそのエアコンを譲り受けた。設計時、将来的には、冷房設備が必要となることを想定して、「風の道」を機械室として利用するエアコン改修計画を準備していたのであるが、そういう検討もできず、あっという間に執務空間の壁にはルームエアコンが並ぶ光景となってしまった。これも悔やまれることのひとつである。



竣工当時の外観、あさぎテラスと
陽よけルーバー



生育したブーゲンビリアに囲まれる中庭

市庁舎が経つ敷地は、建設当時はほぼ市街地の中心であったが、40年の間にバイパス道路の整備などで都市構造が大きく変化し、市の中心がずれたこ

とによる立地上の課題も見え始めている。

このような状況で、名護市は、市庁舎を含む名護湾沿岸の建築のあり方を見直すための基礎調査業務に着手している。この業務は一応公開のプロポーザルであったものの、募集要項の公開から提案書提出までの期間が、わずか10日程度という短い期間の設定で、どう見ても広く知恵を集める意識など全くないと考えざるをえないものであった。市庁舎機能をどうするかについては、大きな方針としては、市庁舎機能は新たな土地につくり直す方針が固まっているように思う。築後41年経過していること、市の都市的な構造が変化していること、などを考えると、これまでの機能をそのまま維持することは難しいとも考えられるが、沖縄の建築に少なからず影響を与えた建築の今後について、そう簡単に方向性を出せないのではないかと思う。

・生き続けるための仕組みを考える

設計者は、通常、設計を終え工事が竣工し建物が使い始められれば、ほとんどの場合関わりが無くなってしまう。どんなに思い入れがあり、市民と一緒につくった建物でもよほど幸運がなければオフィシャルなつながりは無くなってしまう。しかし、建築が長生きするために最も必要なことは、ずっと愛情を持って、その建築のことを気にかける人がいるかどうかであると思う。建物の骨格は大丈夫か？ 使い勝手と空間のズレは生じていないか？などを気にしながら、必要が生じたときに最適手当てができるゆるやかな仕組みをつくっておくべきであるということを痛感している。長期にわたる修繕計画を作り、段階に応じて対応するためのプログラムや、ゆるやかな組織を用意しておくことが必要ではないかと思う。現状では行政内部の施設管理の範疇であるためそのような業務は考えにくいですが、設計に関わった立場の技術者等も入れた維持管理の仕組みができれば、公共施設の長寿命化も進んでいくものと思う。

名護市庁舎の市役所機能が他の場所に移った場合、建物自体が解体されてしまわないためには、何に使うか？ 再生のプログラムが必要である。建物が生き続けるためには、強度など、技術的に安全性を担保することはもちろんであるが、加えてその建物の新しい使い道を考え、これまで培ってきた建物に対する市民の愛着をつなげていくことが重要であると思っている。名護市に働きかけながら、これまでにない、建物が長生きするための知恵を集める仕組みをつくれないうちと思っている。

□ 日本建築学会主催の学生創作茶席グランプリ受賞のご報告

69回 山下 正太郎



建築設計学研究室修士2年の山下正太郎と申します。日本建築学会主催のコンペ「建築文化週間学生グランプリ2022銀茶会の茶席」にて、研究室のメンバー（沈子榆（修士2年）、井上龍也（70回、修士1年）、岡本一希（学部4年））と共に提案した茶室「秋（とき）の木」が最優秀賞に選ばれましたので、この場を借りて作品の紹介をさせていただきます。

このコンペは、10月に銀座通り周辺で開催される「銀茶会」において、銀座三越の会場で展示され、実際にお茶席として使用される創作茶席の設計・制作案の募集を目的としています。1次審査によって入選した作品は茶道・意匠・構造等さまざまな専門家の方々による指導の下、1/1模型を製作し、2次審査にて最優秀賞を受賞した作品は銀座三越にて展示・使用を目的とした実施設計と制作を行います。

この茶室を提案するにあたり着目したのが、木材の“反り”です。建築業界で反りは木材の欠陥とされていますが、本提案ではこの反りを木材の自然のままの姿であると捉え、意匠・構造的に活かすことで、茶道の精神である侘び寂びを表現することを目指しました。

素材は反りやすさを考慮し、厚さ3～5mmの広島県産材の杉板を使用しています。杉板の短手方向の反りは長手方向に対する座屈強度を格段に上昇させるため、厚さわずか数mmの杉板を構造材として機能させることができます。よって杉板が仕上げ材かつ構造材として働くため、この茶室は杉板同士を麻糸で縫い合わせるという簡素な構成により成立しています。構造的には上部の縫合部分で板を3重に重ね合わせることで持ち送りによる力の伝達を生み、さらに下部で捻じりスリットをつくることで内部に光を取り入れつつ、糸にテンションをかけ強度を出しています。結果的に約80枚の杉板が大きく揺らぎながら曲面を作り出し、一見不安定に見えながらも安定した形で自立しています。

内部は杉の香りと抜け節やスリットから木漏れ日のように差し込む光に包まれる安心感と不安定な形態が生み出すほどよい緊張感を演出し、お茶の時間を楽しんでいただけるような心地よい非日常空間を目指しました。

また杉板を麻糸でつなぐという単純な構成により運搬・茶会・収納とシー

ンに合わせて適した形態へ変化させることができ、運搬性・施工性に優れ、どこでも気軽にお茶会を開催できる茶室として提案しました。

今回は図面上の提案だけで終わらずに、施工・展示を通して多方面の方々と交流するという建築を学ぶ上で大変貴重な経験をさせて頂きました。また1/1スケールで茶室を制作するにあたり、配慮すべきことや思い通りにいかないことが多く、建築をつくることの責任と難しさを身をもって体験することとなりましたが、完成した時の高揚感や参加された方々に喜んでいただけたときの満足感は忘れられないものとなり、より一層建築に対する想いが強くなりました。

最後になりましたが、ご指導くださった中藺哲也先生、森拓郎先生、提案内容にご理解いただき木材を準備していただきました西条木材株式会社の皆様、銀茶会当日に向けてさまざまな面でサポートしていただいた銀茶会・銀座三越のご担当者様、審査員の皆様に厚く御礼申し上げます。



銀座三越での展示の様子



お茶会の様子



オープニングセレモニーの様子



2次審査会場での記念写真

□ コロナ禍での学生生活について

建築プログラム3年 濱崎礼菜



建築プログラム3年の濱崎礼菜と申します。新型コロナウイルス感染症が流行したことによって私たち学生も様々な影響を受けています。今回は建築学生における、コロナ禍での学生生活についてお話をさせていただきたいと思います。

2020年4月、私が広島大学に入学した頃、新型コロナウイルスが全国的に流行しており、緊急事態宣言が発令されました。それによって大学の授業はほぼ全てオンライン授業となり大学に通うことができませんでした。友達を作ることも非常に難しく、高校時代に思い描いていた大学生活を送ることができませんでした。対面授業が始まり大学に通えるようになったのは2020年の秋からでした。しかし、新型コロナウイルスの流行の波に合わせて途中からオンライン授業に切り替えることもあり変動的な授業形態が続きました。

2年生になってからの授業はほぼ対面で行うことができるようになりました。対面授業ができるようになったことで友達と一緒に勉強をする機会も増えました。しかし、新型コロナウイルスは依然として猛威を振るい、その影響は2年生の時に受講していた設計製図に響きました。設計製図は製図室で受講者が集って作業をするのですが、2年生後期の最後の課題で木造住宅の設計をしていた時、学内で新型コロナウイルス感染者が増えたことにより製図室での作業ができなくなりました。製図室で作業することで受講者同士切磋琢磨しながら作業ができ、課題に取り組むモチベーションを保つことができていたのですが、急にそれができなくなり課題制作をする上でモチベーションを維持することに苦労しました。そのような苦労が続く中でも先生方が臨機応変に対応してくださり、無事課題を完成させることができました。

現在はすべての授業が対面で行われています。しかし、新型コロナウイルスが今後更に猛威を振るう可能性もあります。早く新型コロナウイルスが収束し、制限なく行動ができる生活に戻れることを願いつつ、これからも勉学に励みながら大学生活を楽しみたいと思っています。これにて終わりとさせていただきます。

□ 広島平和祈念卒業設計展2022の報告

70回 大 呂 直 樹



2022年3月1日から3月4日までの4日間に渡り「広島平和祈念卒業設計展2022」が開催されました。広島は原子爆弾による破壊と消滅を受けた辛く厳しい時代を経験してきましたが、平和を祈念する都市として人類の未来への希望を繋げています。2022年、世界中で新型コロナウイルスの影響が社会に残る中、これまでの生活様式が大きく変化してきています。生活様式の変化に伴い、コミュニケーション・学習環境・労働環境など建築分野における変化やグローバル化についても思慮を巡らす必要があります。このような状況に置かれた今こそ、日本中で多世代が平和について深く考えるべきではないでしょうか。本卒業設計展は、建築学を学んだ学生が建築設計という領域でも、広島が未来に向けて平和を創造し続ける都市であることを、建築空間や都市空間を通して、市民や建築を学ぶ学生などに広く伝えることを目的として企画されたものです。

広島平和祈念卒業設計展（旧：広島8大学卒業設計展）は当初4つの大学から始まり、現在では広島の枠を超えて主体である7大学といくつかの招待校を交え、大きな設計展へと成長を続けています。さらに2000年からは「広島平和祈念卒業設計賞」の授与、2009年からは作品集の発行、2010年からは外部から招待した建築家による公開審査会の開催等、年々内容を充実させていきました。審査員には伊藤豊雄氏、坂本一成氏、西沢立衛氏、妹島和世氏など、世界で活躍する著名な建築家の皆様に歴任していただいております。

卒業設計は、自らの問題設定した敷地を決め、設計していくという今までの設計課題から一歩踏み出した課題です。学生生活最後の設計であるからこそ、作品に対する気持ちは計り知れないものがあります。製作者の思想が反映された作品を審査員含め多くの方に見ていただくことで、新たな課題や思考のきっかけになっていきます。

今年度の作品展示会・審査会は広島平和祈念卒業設計展という名前にふさわしく、広島に現存する被爆建物である旧日本銀行広島支店にて行うことができました。旧日本銀行広島支店は2022年度中に復元工事が始まる予定であり、当建物での設計展の開催はしばらくの間見納めとなるかもしれないという中での開催となりました。また、新型コロナウイルスの余波が残るなか、

感染症対策を充分に行った状態での開催は、運営上多くの制限があり来場者数の低迷が想定されました。昨年度は審査員と運営のみが来場し、オンラインによる発表、公開審査を行いました。今年度は、準備期間を通して感染症の状況の変化が大きく、開催直前まで審査会の開催方式を決定することができませ



展示の様子

んでした。しかし、審査員の先生方に、直接会場に行き対面での審査をしたいとおっしゃっていただき、対面での審査会を行うことができました。また、一人でも多くの方々に私たちの作品を見てほしいという思いから、前年度同様オンラインによる審査会のライブ配信を実施いたしました。今年度の設計展は昨年度から出展作品数が増え140点近くあり、別会場に移動しての審査会となりましたが、無事に審査、配信を行うことができました。今年度も、これまで以上に多くの方々に本設計展を知ってもらうことができたことは、今後の運営においても非常に良い取り組みであったと思います。

審査会では、審査員長として内藤廣先生、審査員として手塚由比先生、藤村龍至先生に会場までお越しいただき、河口佳介先生にはオンラインでの参加をしていただくことができました。国内外問わず幅広く活躍されている4名の建築家の皆様と作品について議論を交わす貴重な機会が得られましたことは、卒業設計の枠組みを超えて新たな時代に向けた今後の我々の設計活動の原動力として活きることになるでしょう。本卒業設計展は、作品の発表の場だけでなく、学生が主体となって企画・運営・管理を行うことで社会との関わりを持てる良い機会となっています。年々反省点を踏まえ、それを改善するよう試行錯誤を繰り返していますが、今年度は特に新型コロナウイルスの影響を鑑みたオンライン配信による開催やその実現に伴う他大学や協力業者との連携など卒業後の糧になるような経験ができたと考えています。開催の半年以上前から、幹部校である広島7大学の学生有志メンバーと全6回の全体会議を通して、開催期間や審査方法の決定、会場の設営方法や当日の役割分担、ポスターやパンフレットの作成等を行いました。今年度は、昨年度から始めた配信の改善を試み、学生一人一人の負担が大きくなりましたが、顧問の先生方やJIA、協賛企業様の多大なるご協力を賜り、困難な状況を乗り越え無事に本設計展を終えることができました。実行委員会のメンバーに

留まらない様々な方々とともに作り上げた設計展は何事にも代え難い貴重な経験となりました。

今年度も「広島平和祈念卒業設計展」が「広島平和祈念卒業設計展作品集 2022」として出版されています。広島 of 学生の活動を全国の方々へ知ってもらうきっかけでもあり、卒業設計展という一時的なものではなく、私たちの取り組みがひとつの形として残ることに非常に大きな意味を感じています。

今後の卒業設計展に関しては、来年度の後輩に引き継ぎを行っています。来年度の展覧会は、我々の反省点を踏まえ、より素晴らしい卒業設計展となるよう期待しています。

最後になりましたが、本卒業設計展の開催にあたりご指導くださった、中菌先生をはじめ各大学の顧問の先生方、ご協賛いただきました地元企業の皆さま、そして本卒業設計展の趣旨にご賛同いただき、開催当初から支援金を援助していただいた広大建友会に厚く御礼申し上げます。この卒業設計展は様々な方々によって支えられていることを実感しております。今後とも邁進していける卒業設計展としていきますので、ご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。末筆ながら広大建友会と広島平和祈念卒業設計展の益々の発展を願いまして終わりの言葉とさせていただきます。



実行委員会集合写真

□ 大学での研究内容

31回 西 名 大 作

広島大学建築グループにおける令和3年度の卒業論文・卒業設計、修士論文、博士論文の題目の一覧を以下に掲載します。なお、名前の下の（ ）内の日付は卒業、修了の年月日を示しており、日付のない場合は2022年3月23日になります。また、学部生のうち、名前の右肩に※印がある学生は建築学課程であることを示しています。

令和3年度広島大学工学部

建築プログラム 卒業論文・卒業設計題目

建築材料学

(指導教員)

- | | | |
|-------|--|-----|
| 安武 伶樹 | RC外壁に発生した貫通ひび割れの挙動再現試験によるひび割れ補修効果の評価に関する研究 | 大久保 |
| 坂田 康介 | 非構造建築部材における剥離検知の高度化に関する研究 | 大久保 |
| 中山 雄貴 | RC建築物におけるひび割れ有害度評価の簡易試験方法の提案に関する研究 | 大久保 |
| 矢野 紘基 | 日射を受ける外壁仕上りモルタルの耐久性評価方法の確立に関する研究 | 大久保 |

建築構造力学

- | | | |
|-------|-------------------------------------|---|
| 西宮 航 | 木質系構造用特殊材料の強度特性に関する研究 | 森 |
| 竹崎 玄 | 集成材重ね梁の接合方法の違いによる曲げ強度特性の向上に関する実験的研究 | 森 |
| 高橋 竜大 | プレストレスを導入したCLT連層壁を有する木造3階建ての振動台実験 | 森 |
| 浅井 鉄平 | CLTをフランジとした木質長スパン充腹梁の開発 | 森 |

建築構造学

- | | | |
|-------|------------------------------------|----|
| 中塚 壮太 | 角形鋼管を外管に用いた複数の丸鋼芯材による座屈拘束ブレースの載荷実験 | 田川 |
| 森山佐那子 | スリットダンパーを用いたレバーアームを有する制振システムの構造特性 | 田川 |

大鶴 駿介	繰返し荷重を受けるスウィングーロッキング型心棒架構の有限要素解析	田川
花岡 慶汰	不等辺山形鋼を用いた高力ボルト柱梁接合部の載荷実験	田川
藤原健太郎	スウィングーロッキング型心棒架構を有する鋼構造骨組の地震応答解析	田川

建築防災学

田中 智大	地盤建物相互作用を考慮したS造建物の静的設計と動的設計の応答比較	中村
杉澤 将太	大型振動台実測データに基づく鋼材ダンパーを有する制振建物の振動モデルの同定	中村
浜井 勇樹	大型振動台実測データに基づく水平・上下方向の振動特性の同定	中村
北岡 陽太 [※]	実測データに基づく地盤建物連成系地震応答解析モデルの同定	中村
谷崎 巧朗	ドローン技術を活用した土石流に対する災害把握と崩壊土砂量の推定	三浦
村田 雄亮	リモートセンシング画像と保険金支払いデータに基づく台風による住宅損害割合の推定	三浦
津村 風太	浅部地盤を対象とした微動アレイ探査と地表／地中スペクトル比の逆解析によるS波速度構造モデルの推定	三浦
橋本 裕輝	基礎調査データに基づく土石流による建物被害予測と土砂氾濫域の推定	三浦

建築耐震工学

島田 修弥	初期高温履歴を受けるコンクリートの骨材界面の損傷が圧縮強度に与える影響	寺本
川上 勇二	コンクリートの高温加熱時の水分逸散量の予測	寺本
松崎 雅俊	高吸水性セメント系材料の開発に関する研究	寺本
田邊 百花	繰返し載荷がアンカー周辺部コンクリートの劣化状態に及ぼす影響	寺本

建築環境学

廣中	文都	詳細な緑情報の追加による修正CG画像の河川景観評価における有効性に関する研究	西名
山下	蓮	西条酒蔵地区の街路景観における自由記述回答に基づく住民の修景整備に対する意識に関する研究	西名
松浦	靖晃	VR空間を用いた観光体験における観光行動特性と心理的評価に関する研究	西名
古田	壮汰	街路景観の視覚的固有性が訪問意欲に及ぼす影響に関する研究 —伝統的建造物群保存地区を対象として—	西名
大石	大将	大学講義室の使用条件が省エネルギー効果に及ぼす影響	金田一
青山	享平	住宅向け対流・放射併用空調システムの温熱環境評価	金田一
田中	透弥	個別分散方式への未利用熱導入に向けた熱源水蓄熱システムの提案	金田一
橋本	凌弥	空調負荷率向上のための蓄熱システムにおける熱交換特性に関する検討	金田一

都市・建築計画学

城本	大暉	中山間地域における地域特性と自治組織の活動実態の関連に関する研究 —安芸高田市の「地域振興会」を対象として—	田中
十亀	維晶	地方都市中心部に立地する公園における利用者の行動パターンに関する研究 —広島市、東広島市、呉市、福山市の中央公園を対象として—	田中
荒木	良太	気候変動適応を目的としたグリーンインフラの効果的な配置に関する研究 —雨水流抑制機能に着目して—	田中
福田	桃花	商業・業務集積地における屋外熱環境デザインのあり方に関する研究 —来街者のアクティビティに着目して—	田中

片山 晴香	既存住宅のグループホーム転用における建築行政 手続きの実態に関する研究	角倉
叶 晴夏	—障害者・児童用グループホームを対象として— 地方移住における中間支援組織の役割に関する研 究—中国・四国地方における組織を対象にして—	角倉
佐々木友子	建設分野における女性技術者の職場環境・働き方 に関する研究—退職・転職の実態に着目して—	角倉
北口 滉大※	自治体規模・施設種類から見た指定管理者制度の 審査体制に関する研究 —広島県の事例を中心として—	角倉

建築史・意匠学

倉田 梨紗	旧広島陸軍被服支廠における施設配置の変遷に関 する研究	水田
辻 拓海	西条における町家の分布と表構えに関する研究 —町並み景観を考慮した許可・修景基準の検討—	水田
山本 剛史	西条における町家の表構えに関する研究 —歴史的町並みの保存に向けた許可・修景基準の 提案—	水田
後藤 瑛人	歴史的町並みにおける伝統的建造物の店舗改築に 関する研究	水田

国際協力研究科開発科学

アジア・建築都市環境

POEUNG SREY PICH		久保田
	Impacts of Various Window Glazing on Energy Consumption and Thermal Comfort in Residential Buildings in the Tropical Climate of Indonesia	
前田 丞	CFD解析を用いた各窓種における交差換気時の 室内気流性状の評価	久保田

卒論・卒計（上段が卒業論文、下段が卒業設計）

山本	友樹	土地の暫定利用が周辺エリアの地価に及ぼす影響 に関する研究 —都市空間の魅力向上のための暫定利用提案に向けて— サーキュラー・サケノミー —暫定利用のまちづくりを支える建築の提案—	田中
中野	瑞希	一時保護所の建築計画の課題に関する研究 —職員の意向に着目して— —の坂川地域共生計画 —まちで支える自立援助ホーム—	角倉
井上	龍也	森林音場の騒音レベル分布調査と室内音場による 森林音場の再現に関する研究 農泊による棚田再生	中藺
國井	奏※	広島市宮基町高層アパートの配置計画がもたらす 日照環境に関する研究 ショミンヅクリ —生産緑地2022年問題にみる土地利用と住み方の 提案—	中藺

卒業設計

北澤	真樹※	まちのサブスクリプション「OndoPrime」 —音戸町瀬戸三区の懐かしい未来を描く—	田中
若槻	瑠実	都市親水帯の計画—福山市入川遺構の活用—	角倉
山田	誠人	Magnetic City in 20XX —都市が再び街と繋がる—	中藺
高田	愛梨	都心のオアシス 基町集合住宅	中藺
山本	千結	肥前浜宿 —茅で広がる街並みとコミュニティの提案—	中藺
大呂	直樹	記憶を解く、街に溶く	中藺

令和3年度広島大学大学院博士課程前期 学位論文題目

工学研究科建築学専攻（構造系）		（主査）	（副査）
張 思晋 （2021.9.17）	複数の丸鋼芯材を用いた座屈拘束ブレースに関する研究	田川	大久保 陳
PAN DA （2021.9.17）	Development and validation of a deep neural network model for estimating site amplification factors from microtremor H/V spectral ratios	三浦	大久保 中村
豊岡 佳樹	繊維平行方向加力における長期せん断性能に関する実験的研究	森	田川 寺本
工学研究科建築学専攻（計画系）			
汪 星伊 （2021.9.17）	西条酒蔵地区における街路景観の修景整備に対する心理的評価に関する研究 —学生被験者の実験結果に基づいた地域住民の評価—	西名	水田 金田一
侯 寧 （2021.9.17）	建築設計教育におけるVR空間の適用性に関する研究 —スケール感の学習効果の観点から—	西名	中藺 金田一
焦 子鈺 （2021.9.17）	木造応急仮設住宅の再利用性に関する研究 —現地再生と移設に着目して—	角倉	中藺 石垣
田淵 貴稔	戸建て住宅の改修に対する住まい手意識と学習機会に関する研究	角倉	中藺 石垣
先進理工系科学研究科 建築学プログラム（構造系）			
北村 成寿	打音・微動解析による建築物の検査技術の高度化に関する研究	大久保	寺本 金田一
横山 右京	RC構造物のひび割れ補修選定のためのひび割れ挙動予測に関する研究	大久保	寺本 金田一
住野 有理	広島県福山市鞆の浦地区の伝統的木造建物を対象とした耐震性能評価に関する研究	森	大久保 木村
高島 将人	円形鋼管ブレースにおける偏心接合部の設計法	田川	陳 半井

前田 知隆	並列心棒架構間にダンパーを配置した制振システムを有する鋼構造骨組の地震応答解析	田川	陳 半井
木村 颯汰	不等辺山形鋼を用いた高力ボルト柱梁接合部に関する研究	田川	陳 河合
久保 一晴	回転入力を考慮した実大RC造建物のシステム同定	中村	三浦 鍋島 河合
藤原 隆太	様々な自然災害に適用可能な空撮画像の深層学習による建物被害把握技術の構築	三浦	中村 作野
殿畑 匠海	人工軽量骨材によるコンクリートの膨張性劣化の低減機構に関する研究	寺本	大久保 畠
戸田 滉大	空隙構造の変化がセメント系材料の線膨張係数制御に及ぼす影響	寺本	大久保 畠

先進理工系科学研究科 建築学プログラム（計画系）

中尾 有沙	伝統的建造物群保存地区における街路景観の視覚的固有性に関する研究 —街路舗装条件の変更前後での比較—	西名	金田一 高田
住吉 沙和	空調稼働時の部分負荷率向上にむけた蓄熱システムのエネルギー性能に関する研究	金田一	西名 久保田
車木 幸貴	熱源特性を考慮した水熱源ヒートポンプシステムの導入ポテンシャル評価	金田一	西名 久保田
平野 一貴	非木材生産地域における木質バイオマスエネルギー活用計画のあり方に関する研究 —経済性・環境性・防災性を考慮したゾーニング手法の提案—	田中	金田一 小野寺
兼本 紘希	地方都市における物理的・社会的要因がまちの愛着に与える影響に関する研究 —広島県安芸郡熊野町を対象として—	田中	西名 大橋
水澤 克哉	機械学習とモデル解釈手法を用いた空き家発生要因の分析 —適材適所の空き家対策支援ツールの開発を目指して—	田中	中蘭 大橋

片野 裕貴	人口減少を考慮した洪水対策の費用便益評価に関する研究 —複数の対策メニューの適正配置に向けて—	田中	西名 井上
谷川 太一	建築技能者の多能工化に関する研究 —技術者の職能意識に着目して—	角倉	水田 布施
山本 陸	狭域的な資源の利用がもたらす地域住宅生産体制の構築に関する研究 —協力業者と木材の調達に着目して—	角倉	中藺 布施
黒川 大樹	地方都市における戸建て賃貸住宅供給の事業性に関する研究 —愛媛県松山市における事例を中心として—	角倉	中藺 内田
榎 優志	木造住宅生産における標準仕様に関する研究 —工務店・地域ビルダーを対象として—	角倉	中藺 尾崎
永見 大樹	地方自治体による子育て支援施設の整備に関する研究 ～広島県内23市町を事例として～	角倉	金田一 尾崎
林 恭平	広島第一世代の建築家田中清の設計手法の研究 —住宅作品における周辺環境との境界面に着目した分析—	中藺	水田 塚井
福島 岳大	応急仮設住宅の継続利用性を高める乾式工法による基礎の提案	中藺	角倉 塚井

国際協力研究科開発科学専攻

陳 明然 (2021.9.17)	中国大連市の観光景観に対する心理的評価に関する研究 —日本人と中国人を被験者として—	西名	久保田 金田一 張
清谷 大雅	詳細情報の付与が実際の観光体験における認識・評価に及ぼす影響に関する研究 —日本人・中国人被験者を対象として—	西名	田中 金田一

令和3年度広島大学大学院博士課程後期 学位論文題目

工学研究科建築学専攻

(主査)

Zorigt Tumurbaatar

三浦

(2022.3.4) Earthquake Loss Estimation Based on Building
Inventory Data and Strong Motion Prediction in
Ulaanbaatar city, Mongolia

国際協力研究科開発科学専攻

森 博史 東南アジア蒸暑地の都市住宅における自然通風の 久保田

(2021.9.3) 利用と窓の在り方

□ 新任理事自己紹介

70回 田 中 透 弥



この度、建友会第70回理事に就任いたしました田中透弥と申します。現在、私は広島大学大学院先進理工系科学研究科建築学プログラム博士課程前期に在籍しており、建築環境学研究室で西名先生、金田一先生の下、日々研究活動に勤しんでおります。卒業研究のテーマといたしましては、地中熱源ヒートポンプの搬送動力削減手法について検討を行い、蓄熱槽を利用した新たなシステムを提案しました。空調設備における地中熱利用は、ヒートポンプの省エ

ネやヒートアイランド現象の緩和など様々なメリットがあることから、来たるべきカーボンニュートラル社会で重要な役割を果たす技術であると考えています。研究室に配属された当初は、答えのない課題に取り組む難しさに戸惑うばかりでしたが、先生や先輩方からの丁寧なご指導のおかげで、少しずつではありますが、成長を感じています。

さて、今年度を振り返ってみますと、挑戦の多い一年だったように思います。まず、7月4日から5日にかけて開催されましたInternational Symposium on Fuel and Energy 2022は、私にとって初の国際学会となりました。不慣れた英語での発表は、自身の意図する内容とは違う角度で相手に伝わってしまうことも多く、大変苦勞しました。当日は、いくつか質問をいただくことができましたが、なかなか思うように回答できず、自身の力不足を痛感する大会となりました。また、今年度の空気調和・衛生工学会大会（神戸）は対面での開催でした。著名な先生方に面と向かって発表する独特の緊張感や発表者から伝わる熱意を体感し、様々な観点から意見をいただくことができました。やはり、実際に現地に出向き、交流を深めることで得られる情報密度は極めて高いと感じました。昨今は、感染症拡大の影響でオンラインをはじめとする無機質なつながりが主流となっており、学内で意見交換できる同期の存在は貴重なものだと、改めて感じております。私は歴史ある広島大学建友会の理事としては頼りなく、また至らない部分も多々ありますが、同期に限らず先輩や後輩とのつながりを大切にする理事として精一杯努めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、広島大学建友会の益々の発展並びに会員の方々のご健勝を心よりお祈り申し上げ、新任理事の挨拶とさせていただきます。

3. 同窓生近況

□ 近況報告

49回 中 谷 誠



私は、2003年に広島大学大学院を修了後、積水ハウス㈱に入社しました。

今は、本社の戸建商品開発部に所属しており、イズシリーズやシャーウッドなど、戸建商品の開発に携わっています。

2022年3月に、積水ハウスグループ全体で取り組んでいる開発表彰制度にエントリーして、「ダイナミックビームR」×「Family Suite おうちプレミアム」×「おうちで住まいづくり」という、テーマ名称で、最も「独創性・成果度・影響度」に優れた取り組みとして、グランプリ賞を受賞しました。

私が主に担当しているのは、構造と躯体の設計で、天井に梁形がでない7mスパンの大空間を戸建住宅で実現しました。グランプリ賞を受賞した時には、仲井社長と記念撮影したり、社内の多くの方からお祝いのメッセージが届いたり、とても嬉しかったことを今でも覚えています。

広島大学を卒業して、積水ハウスに勤めている、先輩、同級生、後輩の皆様、私たちの部署は、一緒に戸建商品を開発しているメンバーを募集しています。もし、少しでもお気持ちがあれば、建友会誌を読んだよ〜と、中谷までご連絡ください。是非、一度WEBで打合せをしましょう。



無柱の大空間リビング



仲井社長との記念撮影（左側が私）

□ 社会に揉まれて、はや4年…

65回 長谷川 峻 也



大学目の前の「お好み焼きQ」。

今でもあの味を思い出しては、西条に行くきっかけを探しています。私にとって、大学時代の思い出が詰まったお好み焼き屋さんです。さて、そんな大学時代において、最も多くの時間を共にした研究室の同期から連絡をもらい、今回執筆を承りました。

卒業後 JR 西日本に入社し、かれこれ4年が経ちました。最初の配属希望では、同期との競合を避け広島を希望すると無事広島、そして広島駅ビル工事所の配属となりました。学生時代を振り返ると M1 の時、中国の建築学生と共同で設計を行う授業のカリキュラムで、広島駅の建替の計画をしました。入社後駅ビルの解体新築の工事監理の担当となり、当時絵空事だった事に直接携わることになったのは、とても感慨深いものでした。

入社してからは工事監理や解体に伴う駅利用者動線の検討に加え、工事用仮囲い等の販やかしも担当しました。その中でも印象的なのは、閉館後の駅ビルの寂しさを抑えるために行ったショーウィンドウの窓ガラスに広島のゆるキャラを散りばめたデザインをしたことです。まさに新入社員という仕事ですね。何十もの広島の自治体にキャラクターの使用許可の申請を行い、デザイン検討を通常業務と並行して進めたため、想像以上に大変だったのを覚えています。当時はコロナ禍ただ中で、イベントの場を失った各自治体のキャラクターたちに結果オーライ的に日の目を浴びる機会を作ってあげることができ、とても感謝されたのはいい思い出です。



ひろしまご当地キャラクターデザインによる内装解体の目隠し
(キャラクターの選定は独断と偏見)

広島勤務3年間の内最後の1年間は、広島駅在来線改札内の待合室の設計と工事監理を担当しました。線路上空の鉄骨建方や工事に伴う一定期間のエスカレーター停止に関する関係各所との調整など、まさにJR工事といった神経を使うものでした。無事OPENし、多くの方に利用されているのを見たとき、非常にやりがいを感じました。ここで、1つデザインを凝った部分について紹介させてください。広島駅の中央改札前に1本の光るデザイン柱があります（下写真右）。中に折のリブのある石膏を入れていますが、こちらは面によって折りが違います。これは折り鶴の折る過程を東面→北面→西面とデザインしているためです。将来この位置は広電のターミナルと在来線の改札口の間地点となるため、この柱は動線上多くの駅利用者の目に触れることとなります。ひっそりとデザインしているので、広島駅に寄られた時はぜひご覧ください（写真では見にくいので、ぜひ現物を！）。



広島駅1・2番線上空の待合室
(2022年7月OPEN)



多くの方が行き交う場所に位置する
デザイン柱

そして今、本社でJR福知山線列車事故の事故車両保存および教育研修施設の計画を担当しています。そこの部署は、建築系統は自身だけであり、これまでとはかなり異なる環境となりました。ただ、ユーザーの要望を形にするという本質的な部分はこれまでと変わらないので、ユーザーに耳をしっかりと傾け日々業務に励んでいます。

社会人になり、純粹に仕事って楽しいなと思っていることは幸せなことだと思っています。特に、現在の部署への配属のように、関わることの無かったらろう会社の人と一緒に仕事をすることなど自分の想定外のことを起こしてくれるのは、会社に所属することの醍醐味だと感じています。

これからも多くの予期していなかった出会いや巡り合わせがあると思います。そんな未来に希望をいだきながら引き続き楽しく過ごしていこうと思います。

□ 近況報告

69回 松 原 拓 土

秋も深まり、すっかり日足が短くなりましたが、皆様には変わらずご活躍のことと存じます。新型コロナウイルスによる世界的なパンデミックが続く中、私たちの故郷西条では、先日2年ぶりに「酒祭り」が開催されたという吉報も耳に入っており、少しずつ町に活気が戻ってきたことを嬉しく思います。

私は卒業後、ゼネコンに就職し、現在は東京のマンション建設現場で、設備担当として現場監督の仕事をしています。具体的には、現場全体の工程から設備工事の乗り込み時期や資材搬入のタイミングを調整したり、施工図面のチェック（建築工事や他設備との取り合いが出来ているか、無駄なところがあれば変更してコストを削減させるなど）とその管理、建築工事との取り合い調整などの業務を行っています。また、現在内装工事が繁忙期を迎えており、施工検査の対応や是正の追いまわしを、工事を進めながら行わなければならない、かなり忙しい日々を送っています。現在の現場は私にとっての初現場で、始めの頃は何もわからず、ただ先輩の後ろをついて歩くことしかできず、常に上司や先輩にお叱りをうける日々でしたが、約1年この現場で働く中で、知識や経験も少しずつ身に付き、お叱りの内容のレベルが上がっていることに自分の成長を感じております。学生の頃、講義や建築環境学研究室でのゼミの内容を真面目に聞いて勉強しておけばよかったと今更ながら後悔しております。建築環境学研究室と言えば、私の恩師であるN教授ですが、大学4年生の時、N教授に研究室で言われた「社会に出れば常に100%の仕事が求められる。今（研究活動で）それが出来ないのに、社会に出てできるわけがない。」という言葉は今でも思い出します。私の周りの上司や先輩方は常にプロフェッショナルで、仕事に対して一切の妥協を許さず、知識も経験もまだまだ足りない2年目の私が、今その人達と同じレベルで仕事をするのは難しいですが、この言葉を思い出しながら、今の自分が出せる100%の仕事をしようという気持ちで毎日仕事に向き合っています。

私と同じ69回卒で大学院に進学された方は、修了に向けて最後のスパートを切っている頃でしょうか。進学された方も、私と同じく就職された方も、皆様のそれぞれの舞台での100%のご活躍をお祈り申し上げます。



7. 広大建友会規約

(名称・所在)

第 1 条 この会は、広大建友会と称し、本部を東広島市鏡山1-4-1 広島大学工学部建築学教室内に置く。

(目的)

第 2 条 この会は、会員相互の親睦と連帯を図り、会員の社会発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第 3 条 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 年1回総会および懇親会を開く。

(2) 年1回以上名簿を兼ねた会誌を発行する。ただし、隔年発行とすることができる。

(3) その他、この会の目的達成に必要な事項

(会員)

第 4 条 この会の入会資格者は、次のとおりとし、入会金納入者を正会員とする。

(1) 正会員 広島大学工学部土木建築学専攻、同学部建築学科および同学部第四類建築学課程・構造工学課程・地域工学課程・建築工学課程・居住環境計画学課程もしくは建築プログラムの卒業生ならびに広島大学大学院工学研究科建築学専攻、構造工学専攻、環境工学専攻、社会環境システム専攻、同大学院生物圏科学研究科環境計画科学専攻、同大学院国際協力研究科開発科学専攻もしくは同大学院先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻建築学プログラムおよび理工学融合プログラムの建築系の課程修了者。

(2) 参与会員 広島大学大学院工学研究科（建築構造学・建築計画学）および広島大学大学院国際協力研究科（開発科学）の建築系教官。

(役員)

第 5 条 この会には、次の役員を置く。

(1) 会 長 1 名 (2) 副会長 若干名

(3) 理 事 各期若干名 (4) 監 事 2 名

(役員の選任)

第 6 条 役員は、次の各項の規定に従い、選任する。

(1) 会長候補者は、理事もしくは理事候補者の互選により定める。

- (2) 副会長候補者は、広島、東京、大阪の各支部長の職にあるものをもってあてる。
- (3) 理事は、各期毎に、卒業生のうちから1-2名づつその候補者を選出する。
- (4) 監事は、会員の中から数名を監事候補者とする。
- (5) 役員の任期は2年（ただし、補充により選任された場合については、前任者の残存期間）とし、総会の承認を得て、決定する。
- (6) 役員の再任は妨げない。

（役員の責務）

第 7 条 会長、副会長、理事および監事は、次に定める責務を遂行する。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を処理、監督する。また、理事会および総会の召集を行う。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その指名によって副会長のうち1名が会長職務を代行する。
- (3) 理事は、会務を処理すると共に、住所録の作製等、各期会員の取りまとめを行う。
- (4) 監事は、会務を監査する。また、理事会に出席して意見を述べることができる。

（理 事 会）

第 8 条 理事会は、総会に付議すべき事項を審議するほか、会務運営に関する事項について審議する。

（総 会）

第 9 条 定時総会は、毎会計年度の末日から60日以内に、また、臨時総会は、必要に応じて、それぞれ、開催する。

（名誉会長・顧問）

第 10 条 本会に名誉会長、顧問をおくことができる。名誉会長は、広島大学工学部建築学教室の主任教授をもってあてる。顧問は、本会の会長を務めた者をもってあてる。顧問は、会長経験者として、意見を述べる。

（終身会員・名誉会員）

第 11 条 入会後40年以上を経過し、かつこの間を含め50年分の年会費を完納した正会員を、終身会員とする。また、本会の目的達成に顕著な貢献をした終身会員もしくは年会費10年分以上の寄付を行った終身会員には、理事会の推薦により、名誉会員の称号を贈る。終身会員、名誉会員の会費は、これを免除する。

(会 計)

第 12 条 この会の経費は、会費・寄付金の収入をもって支弁する。収支決算は、監事の意見をつけて毎年総会において承認を受ける。この会計年度は、1月1日に始まり、12月31日に終る。

(支部の設置)

第 13 条 多数の在住会員をもつ遠隔の地方には、会員の要望により支部を設置する。この場合は、所在地・支部長を本部に報告する。但し、支部の運営については、当該支部で定める。

(規約の変更・その他)

第 14 条 この会の規約の変更は、総会において、出席者の過半数の賛成を得て決定する。また、この規約に必要な内規は、理事会に諮り定める。

慶 弔 規 定

会員の死亡の場合 香 料 10,000円

参与会員の死亡 香 料 10,000円および生花一對

旧教官の死亡 同 上

勤続10年以上の参与会員の退官

記念品 (50,000円相当)

上記以外の参与会員の退官

記念品 (30,000円以内相当)

旧教官の総会への招待 開催地における年長旧教官より数名を、順次招待する。

8. 編集後記

- 建友会誌 Vol.65をお届けします。2021年度と同様に2022年度理事会も書面審議とさせていただかざるを得ませんでした。2023年度総会は久しぶりに対面での開催を計画し、ご案内させていただくことができました。これもひとえに東京支部の皆様方のご尽力の賜物として、深く感謝させていただく次第です。この編集後記を執筆しておりますのは2022年11月中頃なのですが、第8波の足音が次第に聞こえ始めてきております。会員の皆様方の元へこの会誌が届く頃、何とかまだ小康状態が保たれていて、無事に総会が開催されることを願ってやみません。
- さて、2022年度理事会では、諾否を問う議事案件の他に建友会の現況に関する問題点を簡単にまとめた資料を添付させていただき、ご意見を頂戴させていただきました。単なる諾否のみではなかったことから、お寄せいただいた回答の数は、実に2021年度の2倍に及びました。資料の内容、並びに、理事の皆様方からのご意見、いずれも記事として掲載しておりますので、是非ご確認いただき、広くご意見を頂戴させていただければと存じます。会員あつての建友会です。事務局としましては、皆様方お一人お一人のお気持ちを大事にして、今後の運営に携わっていきたいと考えております。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

(事務局長 西名大作 令和4年11月14日記)

- 建友会誌の編集を担当してこの Vol.65で3冊目になりますが、まだまだ要領が得られず、関係者の皆様からの協力を得ながらなんとか校了まで漕ぎ着けている状況です。2023年度の総会は久しぶりに対面で行われるということもあり、東京での総会には事務局として初めて参加致します。例年行われてきたような盛大な懇親会の開催は難しいと思いますが、総会・講演会の合間を縫って出来るだけ多くの会員の皆様にご挨拶ができるように、たくさんの名刺を持って会場をまわりたいと思っております。

(建友会事務局理事 中藺哲也 令和4年11月15日記)

- 建友会誌の編集では、同窓生近況の原稿および名簿情報の更新について担当しています。原稿の執筆者人選にご協力いただいた理事および原稿執筆者の皆さま、また名簿情報の更新にご協力いただいた各期理事の皆さま、お忙しいところご対応いただき本当にありがとうございました。さらに、会費の自動引き落としも担当していますので、会費自動引き落としについてご希望やご質問がありましたら、私宛にご連絡いただければ幸いです。2023年度総会（東京）にも参加いたしますので、皆さまと交流できることを楽しみにしております。

（建友会事務局理事 高田 宏 令和4年11月16日記）

- 建友会誌の編集では、「寄稿」における在学生の原稿を担当しております。これら原稿は、建友会の皆様だけでなく、私たち教員にとってもコロナ禍における学生生活の難しさ等を教えてくれるものとなっており、ご協力いただいた学生にはこの場をお借りして、感謝申し上げます。また2年前より建友会誌の編集に携わる立場になり、事務局先生方の多大な作業により建友会誌が作成されていることを知りました。現在、事務局の一員として、他の先生方に比べると、微少な貢献しかできていませんが、今後は建友会の現況に関する問題点について頂戴した皆様のご意見を考慮しながら、広建友会の持続的な運営に携わっていきたいと考えておりますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（建友会事務局理事 田村将太 令和4年11月16日記）

広建友会事務局

西名 大作（31回：大学院先進理工系科学研究科	TEL（082）424-7838）
松本 慎也（43回：近畿大学工学部建築学科	TEL（082）434-7000）
中藺 哲也（43回：大学院先進理工系科学研究科	TEL（082）424-7834）
高田 宏（47回：大学院人間社会科学研究科	TEL（082）424-6855）
光井 周平（54回：広島工業大学環境学部	TEL（082）921-5413）
田村 将太（63回：大学院先進理工系科学研究科	TEL（082）424-7866）

9. 広告案内

[1 ページ広告]

- 1 総合資格学院／株式会社総合資格
- 2 日建学院／株式会社建築資料研究社

[50音順]

[1/4ページ広告]

- 3 DIY Gusthouse

[50音順]

掲載料	1 ページ広告 (A 5 サイズ)	50,000円
	1/2ページ広告 (名刺 2 枚分)	30,000円
	1/4ページ広告 (名刺 1 枚分)	20,000円

広告掲載に関するお問い合わせは建友会事務局まで

担当 光井 周平

(54回・広島工業大学 環境学部 建築デザイン学科)

電話／FAX (082) 921-5413

E-mail s.mitsui.hu@cc.it-hiroshima.ac.jp

建築士試験 一発合格を目指すなら その道のプロがサポートします。

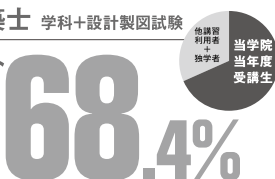
総合資格学院は
広島県も全国も
合格実績

No.1

令和3年度 1級建築士 学科+設計製図試験

広島県 ストレート
合格者占有率

広島県
ストレート合格者38名中 /
当学院当年度受講生26名
(令和3年12月24日現在)



令和3年度 1級建築士 設計製図試験

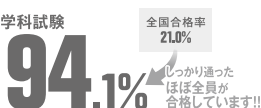
広島県
合格者占有率

広島県
合格者79名中 /
当学院当年度受講生50名
(令和3年12月24日現在)



令和4年度 1級建築士 学科試験 当学院基準達成 当年度受講生合格率

8割出席・8割宿題提出・
総合模範試験100点以上達成
当年度受講生438名中 / 合格者412名 (令和4年9月23日現在)



令和4年度 2級建築士 学科試験 当学院基準達成 当年度受講生合格率

8割出席・8割宿題提出・
総合模範試験正答率6割達成
当年度受講生498名中 / 合格者473名 (令和4年8月23日現在)



●令和3年度 1級建築士設計製図試験 全国合格者3,765名中 / 当学院当年度受講生1,986名 全国合格者占有率52.7% (令和3年12月30日現在)

※当学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国/都道府県合格者数: 全国ストレート合格者数、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科/設計製図ストレート合格者とは、令和3年度の1級建築士学科試験に合格し、令和3年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

令和3年度 1級建築士 設計製図試験 卒業学校別実績

卒業生合格者20名以上の学校出身合格者の2人に1人以上は当学院当年度受講生!
卒業生合格者20名以上の学校出身合格者 2,080名中 / 当学院当年度受講生 1,139名

当学院占有率 **54.8%**

学校名	卒業 合格者数	当学院 受講生数	当学院 占有率	学校名	卒業 合格者数	当学院 受講生数	当学院 占有率	学校名	卒業 合格者数	当学院 受講生数	当学院 占有率	学校名	卒業 合格者数	当学院 受講生数	当学院 占有率
日本大学	153	83	54.2%	法政大学	51	41	80.4%	東京都立大学	32	24	75.0%	摂南大学	24	20	83.3%
東京理科大学	128	65	50.8%	大阪市立大学	45	21	46.7%	東洋大学	32	19	59.4%	日本女子大学	24	14	58.3%
芝浦工業大学	96	63	65.6%	九州大学	44	22	50.0%	名城大学	32	15	46.9%	室蘭工業大学	23	12	52.2%
近畿大学	87	50	57.5%	東京電機大学	40	23	57.5%	名古屋大学	31	17	54.8%	北海道大学	23	10	43.5%
早稲田大学	79	24	30.4%	名古屋工業大学	40	17	42.5%	立命館大学	31	20	64.5%	京都建築大	22	20	90.9%
明治大学	70	44	62.9%	広島大学	37	23	62.2%	東海大学	30	19	63.3%	鹿児島大学	21	14	66.7%
千葉大学	68	46	67.6%	金沢工業大学	35	13	37.1%	千葉工業大学	29	19	65.5%	前橋工科大学	21	11	52.4%
工学院大学	63	36	57.1%	横浜国立大学	33	10	30.3%	東京工業大学	29	8	27.6%	大阪大学	20	4	20.0%
京都工芸繊維大	57	33	57.9%	関西大学	33	21	63.6%	福井大学	29	14	48.3%	東北工業大	20	13	65.0%
京都大学	56	22	39.3%	信州大学	33	16	48.5%	三重大学	28	14	50.0%	※卒業学校別合格者数は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。 ※総合模範試験の合格者数には、2級建築士試験受験資格として申し込まれた方を含められている可能性があります。 ※上記合格者数および当学院占有率はすべて令和3年12月30日に判明したものです。			
神戸大学	54	26	48.1%	東京大学	33	13	39.4%	愛知工業大	26	12	46.2%				
大阪工業大学	51	31	60.8%	東北大学	33	18	54.5%	神奈川大学	26	16	61.5%				
東京都市大学	51	30	58.8%	熊本大学	32	19	59.4%	福岡大学	25	14	56.0%				

令和3年度でも多くの
広島大学OB が当学院の講座を
受講して合格されました。

広島大学卒業合格者 当学院占有率

広島大学卒業合格者37名中 / 当学院当年度受講生23名

※卒業学校別合格者数は、試験元である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。
(令和3年12月30日現在)



就活に役立つ資格

無料ガイダンス・体験入学 随時受付中!!

建築士

宅建士

インテリア
コーディネーター

スクールサイト www.shikaku.co.jp

総合資格

検索

Twitter ⇒ @shikaku_sogo

LINE ⇒ 「総合資格学院」

Facebook ⇒ 「総合資格 fb」で検索!



総合資格学院



広島校
福山校

TEL.082-542-3811
TEL.084-991-3811

1級・2級
建築士

構造設計
1級建築士

設備設計
1級建築士

建築設備士

1級・2級
建築監工管理士

1級・2級
土木施工管理士

宅地建物取引士

賃貸不動産
経営管理士

インテリア
コーディネーター

受講生ファーストの **日建学院**

日建のごがすぞい
POINT 5

合格実績

こんなに
日建学院で
合格しています!

POINT 01

平成元年から令和3年の1級建築士合格実績
この33年間に誕生した
1級建築士の半数以上が
日建学院の受講生です!

1級建築士 合格実績
No.1

日建学院 平成元年～令和3年の合格実績

1級建築士 (全国累計 165,868人*)

93,110人

当学院の1級建築士
合格者占有率 **56.1%**

この33年間に誕生した1級建築士の
半数以上が日建学院の受講生です!

*上記全国累計は(公)財「建築技術情報普及センター」発表試験結果(1989～2021年)のデータです。

POINT 02

おかげさまで10冠達成!
外部調査機関調べ



日本マーケティングリサーチ機構 調査概要:2021年9月期_顧客満足度調査

POINT 03

私も日建学院で1級建築士を
取得しました!



代表取締役 馬場 栄一

だからこそできる
受講生ファースト!
コンプライアンスを
重視し、
徹底的にサポート!

POINT 04

大学生の1級建築士合格者の
多くが日建学院生です!

福井工業大学	70.00%	大分大学	66.67%
日本女子大学	62.50%	金沢工業大学	60.00%
日本工業大学	58.33%	愛知産業大学	55.55%
東京工業大学	55.17%	東京大学	54.55%
愛知工業大学	53.85%	大阪市立大学	51.11%
大阪大学	50.00%	早稲田大学	46.83%

*上記数値に無料の役務提供者及び、模擬試験だけの受講生は含まれておりません。
※2022年1月13日時点での日建学院独自調べによる速報値です。

POINT 05

建築士法改正後、1級建築士
全国最年少合格者(20歳)も
日建学院から輩出しました!



1級建築士合格 / 小野 淳子さん

1級建築士合格 / 坂田 康翔さん

あなたの夢、応援します。

日建学院

0120-243-229

株式会社建築資料研究社 東京都豊島区池袋2-50-1
受付/10:00～17:00(年末年始12/28～1/5、土・日・祝日を除く)

Airbnb 系ゲストハウス

DIY Guesthouse

ホスト 11回卒業生

灰 山 彰 好

建築教員を卒業して20年、今は
一改築マニアです。

同窓会や帰省にご利用ください。

